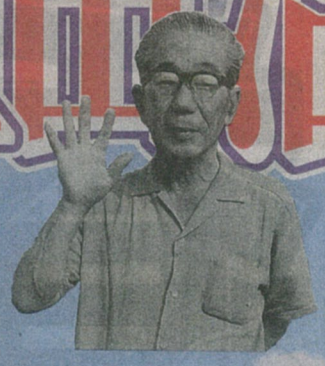
〈第三種郵便物認可〉　平成26年(2014年)10月3日 金曜日　サンケイスポーツ

名匠・上田治氏の芸術作品

ビジターで満喫



秀峰・大山を間近に望む大山GC。雄大な景色を楽しみながら〝上田ワールド〟を満喫できる

Do Golf

コース探球隊

鳥取・大山ゴルフクラブ

秋の大山 絵になるゴルフを

秋のベストシーズンだからこそ、いいコースでプレーしたい。大阪が生んだ名設計家、上田治氏＝写真上＝が手がけたコースの中にも、ビジターOKのコースはある。秀峰・大山を望む「大山ゴルフクラブ」（鳥取）は、そのひとつ。絶妙なレイアウトで美しい景観と調和させた代表作。一度は回っておきたい名匠の〝芸術品〟を紹介する。

心に残るプレー味わえる

心に残るプレーを求めたくなる季節。舞台選びにもこだわるなら、大阪が生んだ名設計家、上田治氏の世界に浸ってみてはどうだろう。同氏が手がけた50以上のコースの多くはメンバーの紹介・同伴が必要だが、ビジターOKもある。オススメは大山の麓にひろがる鳥取の「大山GC」。質実剛健な名匠の傑作と呼ばれるコースだ。

周囲の自然や景色を取り込んで作る『借景』という造園技法を取り入れた作風の中で、象徴的なコース。「伯耆（ほうき）富士」の別名をもつ中国地方の最高峰を各所から望める。心を奪われるレイアウトに加え、ホールをセパレートする高い赤松が醸し出す雰囲気は格別だ。

「これまでいろんなコースを見てきましたが、これほど赤松が多く、景観の素晴らしいコースはなかなかありません。できる限り自然を残そうという上田先生の思いを感じられます」

2001年の「久光製薬KBCオーガスタ」でツアー初優勝し、今年3月から同GCの理事を務める平石武則プロ(54)も、その美しさにうなずく。

5番パー4は左前方に見える大山に向かってティーショットを放つ。雄大な景観に心を奪われるが、セカンド地点からは打ち上げで花道は絞ってあり、砲台のグリーン面は見えない。名匠らしい造りを感じられる。

打ち下ろしの9番パー3は、砂と芝のバンカーがグリーンを囲む。グリーンを的確にとらえたい。また、グリーンからティーグラウンドを振り返れば、そびえ立つ秀峰の迫力に圧倒される。

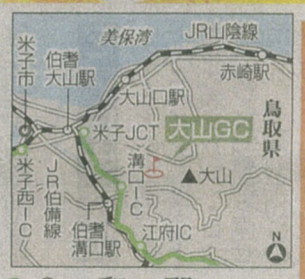
「グリーンは全体的に小さめで外すと難しい。グリーン奥もスペースが少ないので、攻め方は手前から」と平石プロ。

15番はやや打ち上げのパー4で2段グリーン。2打目は慎重に打ちたい。18番はゆるやかな打ち上げでパー5。グリーン右奥の大山を見ながら、第2打までは豪快なショットで攻めていきたい。

ラウンド後に、また来たいと思わせる18ホール。多くの専門誌でランキング上位に名を連ねるのも納得の名コースは、例年12月頃までゴルフを楽しめるが、10、11月こそベストシーズンだ。大阪から車で約2時間半。少し足を伸ばし、絵画のような風景に飛び込んでもらいたい。

上田 治（うえだ・おさむ）

日本を代表するコース設計家。1907年に大阪・茨木で生まれ、京大農学部で林学を学ぶ。C・アリソンが広野GCを設計した際に助手として参加し、コース造りを学ぶ。大量の土を動かし、変化に富んだダイナミックなレイアウトが多いことから『柔の井上誠一、剛の上田治』と並び称される。砲台グリーンやアゴの深いバンカーなども特徴。大山GCのほか古賀GC、大阪GC、小野GC、下関GCなど西日本を中心に50以上のコースを手がけた。



1970年開場

◆…メモ…◆

★所在地　鳥取県西伯郡伯耆町小林6

★開場　1970（昭和45）年4月

★グリーン　ベント・2グリーン

★アクセス　米子自動車道・溝口ICから約7分。米子鬼太郎空港から約40分

★練習場　約250ヤード20打席

★問い合わせ　☎0859・52・2021